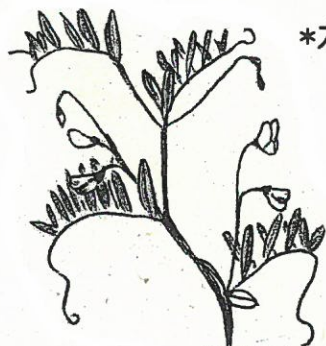




\*レンゲソウ



\*カラスノエンドウ



\*カスマグサ



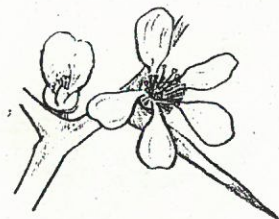
\*スズメノエンドウ



\*セイヨウタンポポ



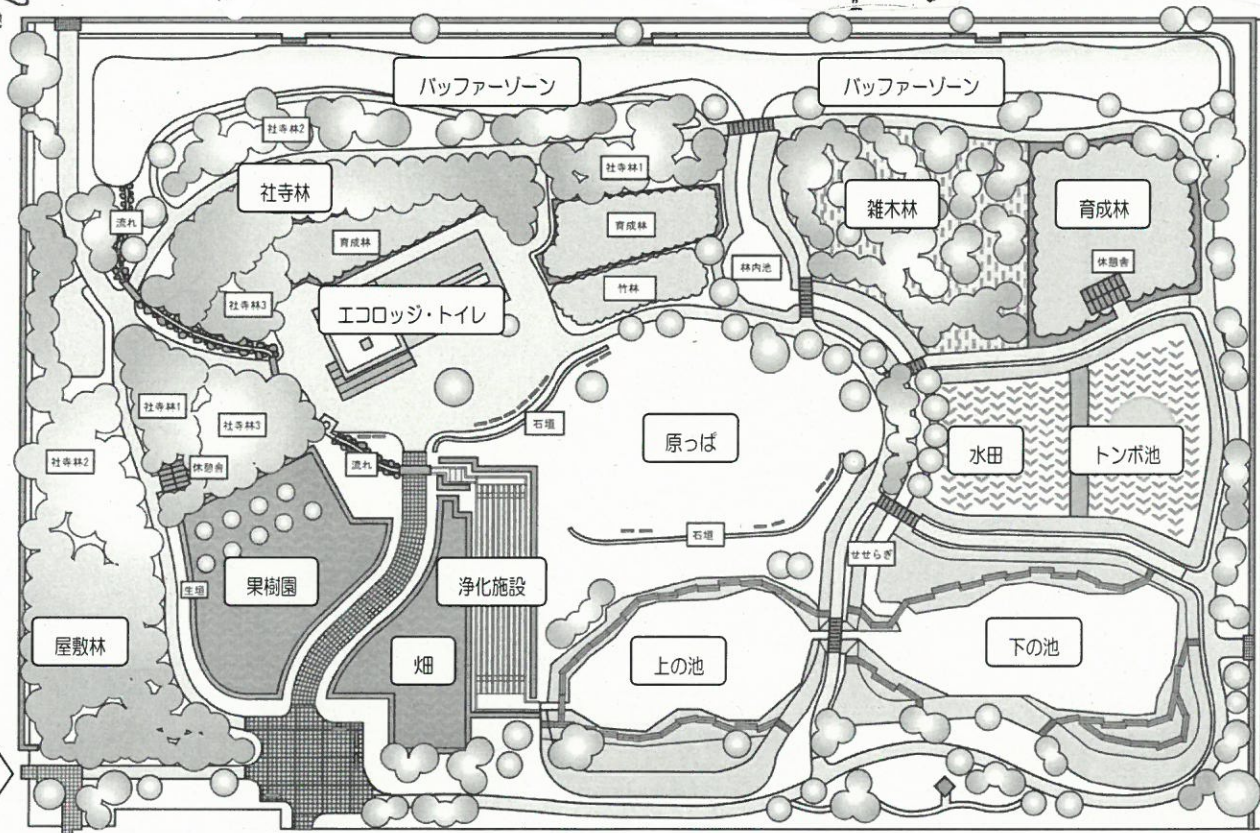
スズメノテッポウ



カラタチ



スミレ



てんぼうしつ  
展望室

じるし うら せつめい  
\* 印は、裏に説明があります。

よ さんこう  
読んで参考にして下さい。

# はる か しよくぶつ 春のマメ科の植物

生態園にもいろいろなマメ科の植物が、花を咲かせています。花の形はよく似ていますが、花の付き方や、葉の様子など、種類ごとに少しずつ様子が違ってきます。比べてみましょう。

## シロツメクサ (シャジクソウ属)

白い花が球状に集まってつき、葉は3小葉からなる複葉。4枚のもあり四つ葉のクローバーとして珍重されています。江戸時代、オランダからガラス器が送られてきた時に、詰め物に使われていたのが名前の由来。明治時代以降、家畜の飼料用として導入されました。茎が地面をはって長く伸び、丸く広がった株を作り雑草が生えにくいので、牧草地で重宝がられ、野生化し、荒地でもよく育ちます。

## フジ (フジ属)

花は左右相称で、蝶に似た形の蝶形花で、大きなクマバチがよくやってきます。葉は夜にはすぼめます。

## ムラサキツメクサ (シャジクソウ属)

紅紫色の花が球状に集まってつきます。明治時代にヨーロッパから牧草としてやってきました。シロツメクサと比べると草丈が高く、株が立ち上がって見えること、毛深いことなどが特徴。ハーブとしても多用される。

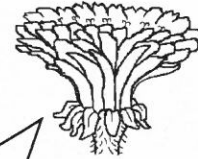
## レンゲソウ (ゲンゲ) (ゲンゲ属)

「蓮」の花に似た草、というのが名の由来です。そこから中華料理などで使う「れんげ」の名は付けられたそうです。また蓮華草の根にはバクテリアがついていて稲にとって良い肥料になるため稲を植える前の水田に植えておき花のあとで土でならして肥料にすることがある。

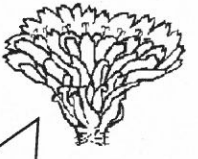
# セイヨウタンポポと カントウタンポポ

セイヨウタンポポ

カントウタンポポ



ガクが  
そ  
りかえ  
返り返っている。



ガクが  
そ  
りかえ  
返り返っていない。

どこにでもあるタンポポですが、知っているようで知らないことがたくさんある植物です。タンポポの花は、100本から200本の小さな花のかたまりです。みんな同じように見えるタンポポですが、日本には、約20種類くらいあります。関東地方で代表的なものは、もともと日本にあったカントウタンポポと、ヨーロッパから来たセイヨウタンポポです。一見同じようですが、花をひっくり返して「ガク」を見ると、その違いがわかります。セイヨウタンポポの「ガク」は反り返っていますが、カントウタンポポの「ガク」は反り返っていません。また、カントウタンポポは、花粉がつかないと種ができないので、雌しべにたくさん花粉がついていますが、セイヨウタンポポは、花粉がなくても種ができるので、雌しべに花粉がついていません。セイヨウタンポポは、花粉がなくても種ができることや、春に限らず秋まで花が咲くことからわかるように、繁殖能力がたいへん強いです。現在、生態園で見られるタンポポのほとんどは、セイヨウタンポポです。

ソラマメの仲間	葉	花	豆と「さや」のようす
カラスノエンドウ	8~16枚の小葉 先端の巻きひげは 1~3本に分かれる 薬膳茶にもなっている。	紅紫色 (長さ約15mm) 葉の脇に1~3個	豆のさや(30~50mm)が 熟すると黒くなる(カラス色) 種子は約10個 若鞘は食用可能です。
カスマグサ (カトスの間の意味)	8~15枚の小葉 先端の巻きひげは 分かれな	淡い青紫色 (長さ5~7mm) 葉の脇から伸びた 柄の先に1~3個	豆のさや(10~15mm) 毛はない 種子はふつう4個
ススメノエンドウ	12~14枚の小葉 先端の巻きひげは 1~3本に分かれる	白っぽい紫色 (長さ3~4mm) 葉の脇から伸びた 柄の先にふつう4個	豆のさや(6~10mm) 短い毛あり 種子はふつう2個